

(37) つばき類

ア 各病害虫の防除

すす病

白藻病

カイガラムシ類・ツノロウムシ

チャドクガ

ア 各病害虫の防除

【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

すす病

(耕種的・物理的防除)

- 1 通気不良な多湿地にでやすいので、このような場所での栽培を避ける。

白藻病

(判断、防除に関する措置)

- 1 雨期に多い。多湿地では年中発病する。常緑広葉樹に広く発病する。
- 2 葉に黄褐～灰褐色のやや隆起した放射状の紋様を形成する。寄生樹種が多い。

(耕種的・物理的防除)

- 1 樹勢の衰えた樹や多湿な場所に発生が多いので、肥培管理に注意し、通風を良くする。

カイガラムシ類・ツノロウムシ

(予防に関する措置)

- 1 適宜剪定を行い、成虫の寄生した枝は除去するとともに、薬剤がかかりやすい樹形を維持する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【カイガラムシ類】](#)・[【ツノロウムシ】](#)

- 1 幼虫発生初期に薬剤を施用(散布)する。
※気門封鎖剤は冬季に施用する。

チャドクガ

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵越冬、年2世代、幼虫は4～6月、7～9月に発生する。地表の落葉や土壌の間で蛹化、卵塊は葉裏に産み付け、黄褐色の体毛(毒毛を含む)で覆う。

(耕種的・物理的防除)

- 1 群集幼虫は捕殺する。
- ※皮膚に虫が触れないように注意する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 直ちに薬剤を施用(散布)する。